

—Hibanaのひいく!—

みんなで考えよう!

日本の森林のこと。エネルギーのこと。

第3章

木の役目の 変化



@hibana_kyoto

前回のつづき

1960年頃、電気ガスの普及で
暮らしは便利になりましたが
ひとつ大きな困りごとがありました。

薪炭を暮らして使わなくなると、
それらを作る人の「仕事」が
なくなってしまったことです。

@hibana_kyoto

そんな時、薪炭を作る人にうれしい知らせが届きます。

「家や建物を作るために
たくさんの木が必要になる」

という知らせでした。

戦後まもないこの時代は戦争で
壊れた家や建物を作り直している時期でした。



@hibana_kyoto

薪炭を作る木と、家や建物を作る木は
種類がちがいます。

薪炭にする木は主に「**広葉樹**」。

冬に葉が落ちる木で、
すぐに燃え尽きないような堅い木です。

一方、**建物に使う木**は主に「**針葉樹**」。

その代表は**スギとヒノキ**。

成長が早くまっすぐに伸びるため
建物の材料に加工しやすいからです。



広葉樹



針葉樹

薪炭を作ってきた人は、広葉樹を伐って、
スギやヒノキの若芽を植えることが新たな仕事
となり、植え替えに必要なお金が
国から渡されました。

こうして日本の森林の半分近くは、
人が1本1本手で植えた「人口林」
となっていきました。



@hibana_kyoto

木は今年植えて翌年収穫することができません。

収穫するまで **50年以上の年月**がかかります。

植えた人はその間ずっと世話を続け、

まさに現在、大量に植えたスギ、ヒノキは

収穫の時期をすでに超えてしまったのです。



@hibana_kyoto

育つのを待つ間は外国から木を買いました。
いつしか日本では外国の木を安く買える制度が
作られ、木が育った今も**外国の木の方が**
ずっと安いので買うことを止めません。

これが**日本産の木よりも外国産の木が**
多く使われている理由です。



@hibana_kyoto

仕方がないことかもしれません。

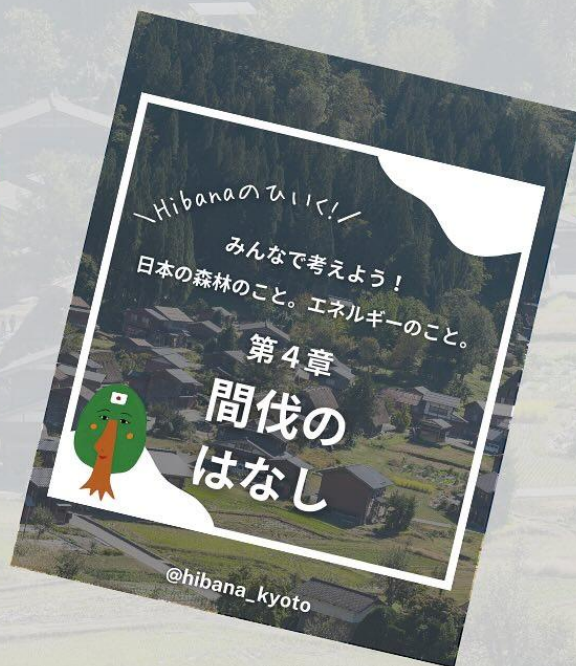
でも、薪炭を作る木を切り倒し、
スギとヒノキを植えて
ずっと世話を続けてきた人たちは
どんな気持ちになるでしょうか・・・



@hibana_kyoto

つづきは次回の投稿で！！

次回の投稿を
お楽しみに！



@hibana_kyoto